

ちょうふ市民討議会 2009

～市民の声でまちを変えよう！ちょうふ^トー^ク9～

実施報告書



2010年3月

ちょうふ市民討議会 2009 実行委員会



～市民の声でまちを変えよう！ちょうふ^ト^ー^ク9～

ちょうふ^ト^ー^ク9について

調布市で初めてとなる市民討議会を皆で作り上げ、広めて行きたいという思いから、TO-9のTOは「together（一緒に）」のTO、「to the world（世界へ）」のTOの意味を、TO-9の9は2009年に実施するという意味合いを持たせて使用することを実行委員会で決定致しました。



はじめに

昨今、日本の主権は中央集権から地方分権へと叫ばれるようになり、「まちづくり」においても市民の意見をより反映させる「市民主導型」になりつつあります。現在各市区町村においても、多くの市民の声を聞こうとさまざまな手法の会議が開催されており、しかしながら市民が声を発する場や参加する市民が必ずしも多いとは言えず、中には参加する市民が一部の方に偏っている状況も見受けられているようです。

先進諸国においては、市民層の社会参画を促す手法として「市民討議会」が用いられ、日本でも2005年以降ドイツのプラーヌクスツェレを参考に行政と青年会議所が協働で行い、全国各地において大きな成果をあげております。そのため、調布市においてもより多くの市民に市政やまちづくりへ興味を持っていただき、参加していただく新たな試みとして、調布市と社団法人調布青年会議所が「ちょうふ市民討議会2009」の実施に関する協定を締結し開催する動きが始まりました。

調布市で初めての市民討議会を開催するにあたり、実行委員会がより公平・中立な立場を築けるように、公募市民の方を実行委員会メンバーに加えました。また、参加依頼通知を発送する無作為抽出作業においても調布市の縮図に近づけるため、住民基本台帳を基に年齢構成、男女比率等を考慮して、今までこのような会議に参加したことのない方々に参加して頂けるような配慮を致しました。

今回の「ちょうふ市民討議会」は、参加者の社会参画意識が向上すること、また今後も「ちょうふ市民討議会」が継続して開催できるよう、市民参加の仕組みの有効性を検証することを目的としております。討議の結果、得られた内容が調布のまちを良くするエッセンスとして今後活かして行ければ、皆様の「まちづくり」に対する関心がより高まるものと思います。参加者の皆様から1人でも多くの方が自分の住むまちに対して興味を持ち、力を合わせて明るい豊かな社会を築いて行く、そのような動きの一助となれば幸いです。

ちょうふ市民討議会2009
実行委員長 小山 晃一郎



実施報告書 目次

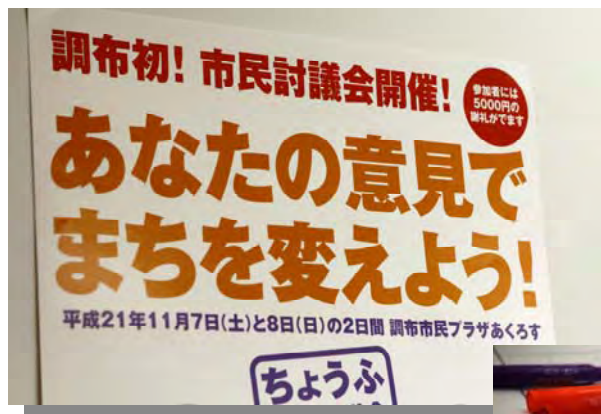
はじめに

1. 市民討議会の特徴	1
(1) 無作為抽出	1
(2) 報酬の支払い	1
(3) 専門家からの情報提供	1
(4) 話し合い・意見集約・投票	1
(5) 報告書の公開・提出	2
2. ちょうふ市民討議会2009実施概要	2
(1) パートナーシップ協定	2
(2) 実行委員会について	3
(3) 参加者の募集方法	5
(4) 実施の概要	5
(5) テーマ及び情報提供者	7
(6) 討議の流れ	7
(7) 経費	9
(8) 報酬	9
(9) 当日の運営	9
(10) 広報活動	9
(11) 中間報告会	10
3. 討議の結果について	13
(1) 討議の結果	13
(2) 討議の結果の分析（得票順）	19
(3) 討議の結果の分析（カテゴリー分類）	22
4. アンケート結果	25
◆参加依頼書アンケート集計◆	25
◆参加者事前アンケート集計◆	28
◆参加者事後アンケート集計◆	34
5. 市民討議会の検証と今後の課題	46
(1) 無作為抽出による参加者募集について	46
(2) 報酬について	47
(3) 日程について	48
(4) 討議回数及びタイムテーブルについて	49
(5) テーマ及び情報提供について	49
(6) グループ討議の方法について	51
(7) 当日の運営及び会場について	52

(8) 実行委員会について	5 2
(9) 予算について	5 4
(10) 事前PRについて	5 5
(11) 市民討議会全体の評価	5 6

おわりに	5 7
------	-----

資料編	6 0
・ 調布市民討議会 2009 の実施に関する協定書	6 1
・ 調布市民討議会 2009 実行委員会設置及び運営規定	6 3
・ 参加依頼書	6 4
・ チラシ	6 8
・ 参加依頼通知アンケート	7 0
・ 参加者事前アンケート	7 1
・ 参加者事後アンケート	7 3
・ 参加者ガイドブック	7 6
・ 運営スタッフマニュアル	8 6
・ サンプルシート	9 9
・ 市民討議会決算書	1 0 2



1. 市民討議会の特徴

市民討議会は、直接民主主義を実現するために1970年代以降ドイツで始まった、行政への市民参加の仕組みです。ここ数年日本でも、主に青年会議所（以下「JC」という。）が主体となって運営を始め、都内では、東京JC、立川JC、町田JC、三鷹JC、日野JC、小金井JCなどが行っており、去年は全国60箇所以上で開催されるまでに至りました。調布市においては初めての試みとなりますが、市民の方々がまちづくりに参加する新しい場として、また市民の声の中でも特に最近重要視されている声なき声（サイレント マジョリティ）を行政へ届ける新しい手法として、市民討議会は現在注目を集めています。

市民討議会の主な特徴として、次の5つが挙げられます。

(1) 無作為抽出

「住民基本台帳」に基づき、公平かつ無作為に参加候補者を抽出することにより、男女比率・年齢構成など、その地域の特徴に近い参加者を得ることができず。

また、市民に参加を直接的に呼びかけることにより、参加意欲を刺激し、これまで市民参加機会の少なかった市民に対し、市民参加を促す効果があります。

(2) 報酬の支払い

労働の対価としての考えのもと、参加者に一定の報酬を支払うことで、市民の参加意識を高めるとともに、討議において積極的かつ責任のある意見を引き出せます。

(3) 専門家からの情報提供

討議ではまず最初に、公正・中立な立場から専門家や行政が討議の基礎となる情報を提供することで、基礎知識が無い参加者でも議論に公平に参加できます。

(4) 話し合い・意見集約・投票

討議の方法は、少人数のグループによる話し合い及び意見集約の後、集約意見の発表と全参加者による投票により、最終的な結論を導くというものであり、議論を公正かつ公平に行うことができます。テーマが複数の場合は、グループのメンバーを入れ替え、議論の活性化を図ります。

(5) 報告書の公開・提出

討議結果は「報告書」としてまとめ、市長に提出し、広く公開します。これにより討議結果を実りあるものとするとともに、討議結果に対する公正性・公平性・信頼性を確保します。

2. ちょうふ市民討議会 2009 実施概要

(1) パートナーシップ協定

調布市で市民討議会を開催すべく、平成20年11月に調布JCが企画書を提出し、平成21年3月19日に調布JCと調布市との間でパートナーシップ協定の位置付けとして、「調布市民討議会2009の実施に関する協定書（以下「協定書」という。）」を締結しました。

協定の内容は、「協定の目的」、「協働に関する原則」、「調布市民討議会2009実行委員会の設置及び役割」、「役割と責務」などから成っています。

（資料編 「調布市民討議会2009の実施に関する協定書」を参照）



協定の調印式

(2) 実行委員会について

協定書では、市民討議会の企画から開催、報告書の作成・提出に至るまでを公募市民を入れた実行委員会を設置して行うことが明記されています。

協定に基づき、実行委員会の設置に当たっては、調布JCと調布市との協議により「調布市民討議会2009実行委員会の設置及び運営規定」を作成し、その中で、メンバー構成を調布JC会員5人以内、調布市職員5人以内、公募市民3人以内と規定しました。また、実行委員会を円滑に進めるためのサポート役として事務局を設けることも規定しました。

平成21年4月に公募市民を募集した結果、応募者は2人あり、これにより、調布JC会員5人、調布市職員5人、公募市民2人の計12人で構成する実行委員会を組織しました。また、事務局は調布JC会員10人で組織することになりました。

(資料編 「調布市民討議会2009実行委員会設置及び運営規定」を参照)

実行委員会の会議は、平成21年5月から平成22年3月までの間、全18回(臨時実行委員会含む)開催し、調布市で初の市民討議会を成功させるべく議論を重ねました。

なお、実行委員会において今回の市民討議会の名称を検討し、市民討議会という新たな市民参加手法を明記するとともに、気軽に参加していただけるよう柔らかな印象にするためにひらがなを交えて、「ちょうふ市民討議会2009」(以下「市民討議会」という。)と決定しました。

実行委員会の経過は次のとおりです。



実行委員会の様子

実行委員会の流れ

年月日	項目	内容
H21. 3. 19	協定書の締結	調布JCと調布市の間で「調布市民討議会2009の実施に関する協定書」を締結
H21. 4	公募市民募集・決定	実行委員会公募市民募集・決定
H21. 4. 16	勉強会	市民討議会についての勉強会実施
H21. 5. 19	第1回実行委員会	委員任命、自己紹介、実行委員長選出、今後の流れ説明、運営方法などについて
H21. 6. 9	第2回実行委員会	ブレインストーミング・KJ法で模擬討議会実施
H21. 6. 23	第3回実行委員会	KJ法にて大テーマ抽出、名称、サブタイトルについて
H21. 7. 7	第4回実行委員会	大テーマと小テーマについて
H21. 7. 21	第5回実行委員会	小テーマについて
H21. 8. 4	第6回実行委員会	小テーマ2つ決定、今後のスケジュールについて
H21. 8. 18	第7回実行委員会	小テーマ1つ決定、予算修正、参加条件、発送スケジュールなどについて
H21. 9. 7	第8回実行委員会	小テーマ詳細決定、無作為抽出条件、チラシ・ポスター、参加依頼書などについて
H21. 9. 12	第1回臨時実行委員会	チラシ・ポスター、参加依頼書について
H21. 9. 18	第9回実行委員会	情報提供者、チラシ・ポスター、司会台本などについて
H21. 9. 26	第2回臨時実行委員会	役割分担、チラシ配布先、情報提供者について
H21. 10. 6	第10回実行委員会	役割分担、司会台本、当日運営方法などについて
H21. 10. 27	第11回実行委員会	リハーサル
H21. 11. 7 ~H21. 11. 8	ちょうふ市民討議会2009	開催当日
H21. 11. 19	第12回実行委員会	運営、開催においての問題点、反省点、報告書作成について
H21. 12. 17	第13回実行委員会	報告書作成について
H22. 1. 7	第14回実行委員会	報告書の形式、役割分担について
H22. 2. 9	第15回実行委員会	報告書の作成、中間報告会の流れについて
H22. 2. 20	中間報告会	開催当日
H22. 3. 15	第16回実行委員会	報告書の最終確認
H22. 3. 18	報告書提出と公開	市長への報告書提出、公開

(3) 参加者の募集方法

参加者の募集に当たっては、住民基本台帳人口の年齢構成比や男女比と同じ比率となるよう、住民基本台帳から20歳以上の1,500人を無作為に抽出し、参加依頼書を発送しました。その結果、参加定員40人に対し46人の参加申込がありました。抽選により40人の参加者を決定しましたが、その後、11人の辞退者があり、市民討議会当日は29人での開催となりました。

なお、40人という参加定員は報酬と予算、会場の大きさを考慮して決定しました。

(4) 実施の概要

今回の市民討議会は、平成21年11月7日（土）、8日（日）の2日間にわたり、調布市市民プラザあくろす内あくろすホールにて開催しました。開催前には、市報、ポスター・チラシ、専用ホームページなどにより、広く開催を周知したほか、当日は一般の傍聴も可能としました。これにより、市議会議員をはじめ、他地域のJCなど、多数の来場者がありました。

開催当日のタイムスケジュールは次のとおりです。

11月7日（土） 12:30参加者受付開始

13:00～13:10	10分	開会式（開会の辞・主催者挨拶）
13:10～13:22	12分	話し合いのルール説明
13:22～13:34	12分	事前アンケート10分+α
13:34～14:30	56分	テーマ1情報提供
14:30～14:43	13分	休憩10分+α
14:43～15:43	60分	テーマ1話し合い（補助係からの説明10分含む）
15:43～16:10	27分	テーマ1グループ毎に発表
16:10～16:17	7分	テーマ1投票
16:17～16:22	5分	事務連絡（アンケート回収）

11月8日（日） 9：30参加者受付開始

10：00～10：05	5分	事務連絡
10：05～11：00	55分	テーマ2 情報提供
11：00～11：06	6分	休憩5分+ α
11：06～12：06	60分	テーマ2 話し合い（補助係からの説明10分含む）
12：06～12：33	27分	テーマ2 グループ毎に発表
12：33～12：40	7分	テーマ2 投票
12：40～13：35	55分	昼食50分+席替え
13：35～14：15	40分	テーマ3 情報提供
14：15～14：21	6分	休憩5分+ α
14：21～15：21	60分	テーマ3 話し合い（補助係からの説明10分含む）
15：21～15：48	27分	テーマ3 グループ毎に発表
15：48～15：55	7分	テーマ3 投票
15：55～16：01	6分	休憩5分+ α
16：01～16：13	12分	事後アンケート
16：13～16：28	15分	閉会式（市長挨拶・JC理事長挨拶・閉会の辞）
16：28～16：38	10分	事務手続き（謝礼交付・アンケート回収）



グループでの話し合いの様子



投票の様子

(5) テーマ及び情報提供者

今回の市民討議会は、調布市で初めての開催ということで、話しやすさを前提に次の3つをテーマとして決定しました。また、情報提供者は、参加者が偏った考えに陥らないよう、中立的な情報提供者を選びました。

なお、テーマ3については、市民である参加者の自由な発想を引き出すため、あえて調布市の現状のみをまとめた情報提供としました。

討議のテーマと情報提供者は次のとおりです。

	討議のテーマ	情報提供者
第1回	各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？	調布市選挙管理委員会事務局 たかやま やすとも 高山 泰朋 様 自治体問題研究所 主任研究員 いけがみ ひろみち 池上 洋通 様
第2回	隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？	亜細亜大学・早稲田大学講師 たなか まさと 田中 人 様
第3回	調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？	ちょうふ市民討議会2009 実行委員 かすや あつこ 粕谷 敦子

(6) 討議の流れ

討議の流れは次のとおりです。

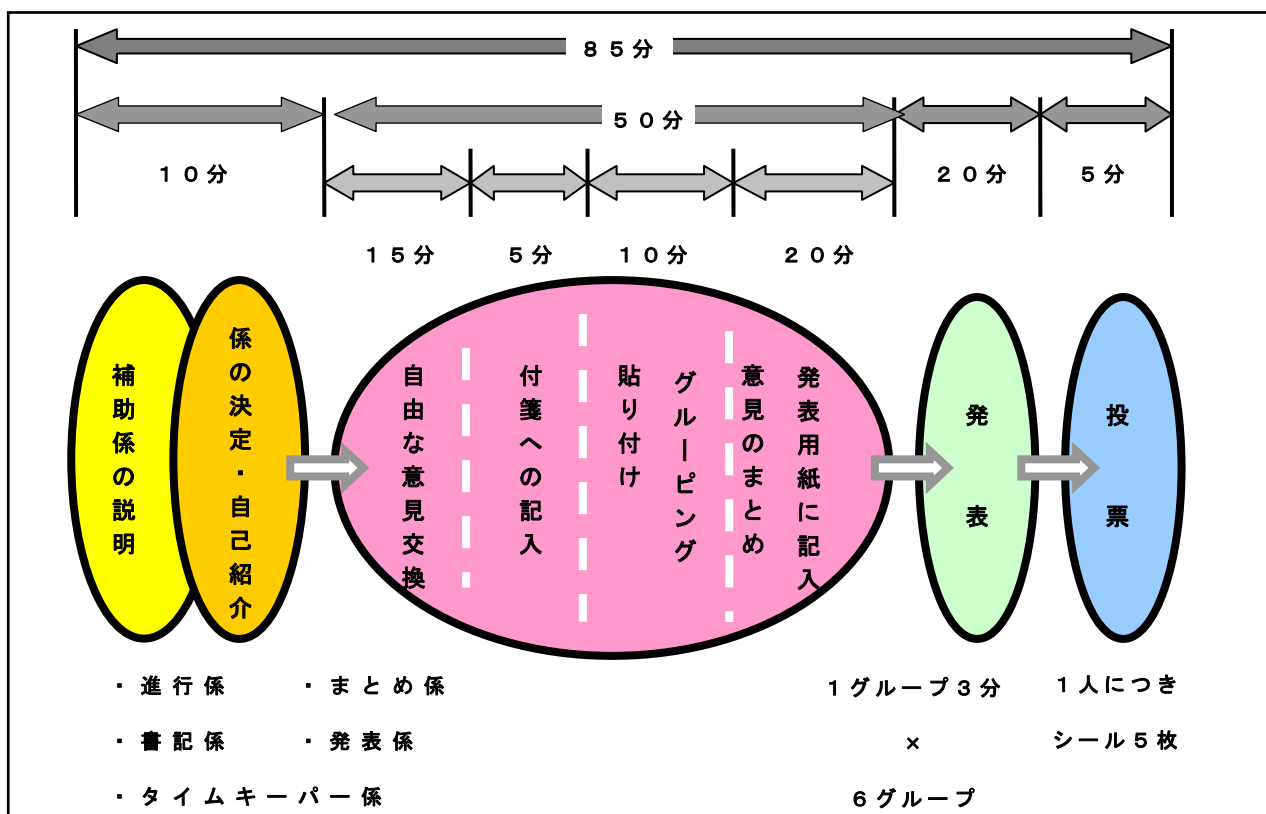
- ① 参加者は5人程度の6つのグループに分かれ、各グループに1人の補助係が付く。(テーマ毎にグループ内の参加者を入れ替える。)
- ② 情報提供者からテーマについての情報提供を受ける。
- ③ テーブル補助係からテーマの内容などについての説明を受ける。
- ④ それぞれ15秒程度で自己紹介をし、グループ内で下記役割(係)を決める。
(ジャンケンで係を決定)

(役割)

- ・進行係・・・話し合いの司会進行をする係
- ・書記係・・・グループ内でまとめた意見や残したい意見を記入する係
- ・タイムキーパー係・・・話し合いのおおよその時間を管理する係
- ・まとめ係・・・付箋をグルーピングしてまとめる係
- ・発表係・・・グループを代表して皆さんへ発表する係

- ⑤ 係を決めた後、進行係の方を中心に、テーマについて自由に意見交換を行う。
- ⑥ 意見交換で出した意見、また他の人の意見を聞きながら思い付いたアイデアを、各自付箋に書き出す。
- ⑦ 付箋に書き終わった後、自分の前のスペースに貼り出す。
- ⑧ まとめ係を中心に、各自が貼り出した付箋を同じ意見や種類に分ける「グルーピング」を行う。
- ⑨ 幾つかにグルーピングができれば、さらに大きなブロックにまとめる。
- ⑩ 書記係を中心にグルーピング、ブロック分けした意見を発表用紙の「まとめた意見」欄にまとめ上げる。「まとめた意見」欄には入らないが、報告書に残して欲しい意見がある場合は、「残したい意見」欄に記入する。
- ⑪ 各グループの発表係が、約3分以内で順番に発表する。
- ⑫ 発表が終わった後、参加者全員が各自持分5枚の投票シールを、全グループの「まとめた意見」の中で良いと思うものに投票する。

討議の流れ（目安）



（資料編 参加者ガイドブックを参照）

(7) 経費

経費については、調布J Cと調布市で分担しました。調布J Cは、広報費（デザイン料、ポスター・チラシの作製費）、設営費（参加者報酬、保育士委託料、情報提供者謝礼、交通費、昼食代など）を主に負担し、調布市は通信費（郵送料）、会場費及び印刷費（郵送物、資料など）を主に負担しました。

(8) 報酬

参加者には2日間参加した場合のみ、源泉徴収税引き後額5,000円を支払い、情報提供者には源泉徴収税引き後額10,000円及び交通費1,000円を支払いました。保育士は資格に合わせ時給払いとしました。

【参考：参加者への有償について】

市民討議会のモデルとされるドイツのプラヌークスツェレでは、参加者への報酬を機会原価損失分の補填として捉えています。まちづくり計画立案は、通常公務員が業務（即ち有給・有償）で行っていますが、参加者が市民委員として計画立案に携わる場合も同様との考えから、報酬は必要とされています。また、有償であることで参加者が責任ある仕事として取り組むことが期待できることや、パートタイム労働者やアルバイトなど時給型労働者に対する休業補償の意味もあります。

(9) 当日の運営

当日は、実行委員会メンバー及び事務局員、調布J C会員が運営スタッフとして運営にあたりました。また、子育て中の方も安心して参加できるよう、会場に併設された保育室には保育士を2人配置し、託児サービスを行いました。

なお、保育室の利用者は2人でした。

(10) 広報活動

今回の市民討議会は、調布市で初めての試みであり、より多くの市民に開催の主旨や時期を周知するため、さまざまな媒体を活用して広報を行いました。市報では、協定の締結をはじめ、公募市民の募集、実行委員会や市民討議会当日の傍聴案内などを行ったほか、専用ホームページにより実行委員会の議事録や会議風景、開催の告知などを行いました。また、開催の前にはポスターとチラシを作成し、市内の京王線9駅や公共施設などに掲示するなど、さまざまな方法で広報に努めました。

(11) 中間報告会

市民討議会の報告書を市長に提出する前に、市民討議会の参加者に対して、討議の結果と市民討議会全般にわたる検証と評価などを報告するため、平成22年2月20日（土）午後4時より、調布市市民プラザあくろす内あくろすホールにおいて、中間報告会を開催しました。

参加者9人と少人数での開催となりましたが、市民討議会の結果や今後について、意見交換を行いました。

参加者の質疑・意見などは下記のとおりです。（発言順）

- ・市民討議会を根付かせるために、今後も継続すべき。
- ・イベントを盛り上げるためのPRが不足していた。
- ・ポスターを銀行や郵便局にも掲示すべきだった。（もっと長期間）
- ・自分達の若い頃は、自由な討議をすることが許されなかった。自由に討論ができるということの素晴らしさを若い世代にもっと理解して欲しい。また、そのためにも、今後も討議会の継続が必要。
- ・イベントの実行委員をしているのでよくわかるが、これだけの規模のイベントで参加者を集める実行委員や事務局のメンバーを集めることは大変な苦労があったと思う。その意味で感謝している。ただし、討議会当日の市長の話には大変がっかりした。
- ・昼間働いているので、平日はほとんど市内にいない。土日の開催ということで参加できた。幅広い意見を聞くことができ、また調布市・調布市政への関心が深まる機会となった。
- ・2日連続の開催は高齢者には厳しい。
- ・市長の話は何だったのか。その話を聞いて、参加者が討議してきたことは何だったのかと感じた。討議会は市民参加そのものではないのか。
- ・例えば、京王線地下化事業のような、市民の関心の高い事業にテーマを集約して討議することも一考の余地がある。
- ・今回提出した意見が、どのように市政に反映されていくのかを見てみたい。



中間報告会の様子



情報提供



専門家の方からの情報提供



情報提供を熱心に聴く
参加者の皆さん



グループでの
話し合い

役割分担をして話し合いを進めます





発表



グループ毎に発表します



開催当日の様子



投票



各自シールを貼って投票

3. 討議の結果について

(1) 討議の結果

各テーマにおけるグループ毎の「まとめた意見」、「得票数」、「残したい意見」は次のとおりです。

【テーマ1】

各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？

グループ A		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	選挙の手法(インターネット、電話)、場所、期間の拡充を図る。	11
②	候補者の情報を決められた書式・機関にて提供し、情報量の増大も図る。	6
③	短期的な啓発として選挙のイベント化を図り、選挙への関心を高める。長期的には教育ツールを利用した幼少時からの教育を実施することで根本的な意識改革を図る。	6
残したい意見		
①	投票所を市内のアクセスポイント(駅など)に設置する。	
②	移動車による移動投票所	

グループ B		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	関心を高めるために、候補者の情報を公共交通機関等で提供できるようにする。	6
②	投票しやすくするために、期日前投票の①期間延長②時間の延長をする。ネット投票ができるようにする。	6
③	選挙の重要性を子供の時から教育する。	7
残したい意見		
①	投票した人にインセンティブを与える。(地元商店街との連携)	

グループ C		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	投票者が行きやすいように駅、コンビニ、スーパー、OA機器で投票できるようにする。	5
②	投票するための情報を得るように広報のしかたを工夫する(活動内容を具体的に記載する)	7
③	動機づけの工夫として、投票者へ啓発配布用品を渡す(ゴミ袋、図書カード、クオカードなど)	9
残したい意見		
①	インターネットで情報提供を動画等含め工夫できる様にする。	
②	住民票と実際の住所と相違がある場合も多い(特に学生)ので、これに関する啓発も行なう。	

グループ D		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか?
まとめた意見		得票数
①	政治の理解を深める為に、様々な教育機会を増やす。(小学校から。)政治家から子供を含む市民へのアプローチ。	8
②	市民の生活スタイルに合わせた投票様式にする。期日前投票や駅前投票等	4
③	投票に行くとメリットがある。景品、割り引き券等	5
残したい意見		
①	インターネット投票	
②	政治(家)への信頼(顔が見える。)	
③	学校行事に政治家も参加。存在をアピール	

グループ E		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか?
まとめた意見		得票数
①	若者の投票率を上げる為に、インターネットで投票できる様にする。	7
②	立候補者の考え方を詳細に載せた市民広報誌をコンビニなどに配布。	11
③	投票所に行きやすくする為、投票所の増設やマイクロバスなどで迎えに行く。	9
残したい意見		
①	人口の流出を止める。	
②	婚活できる休憩スペースを設ける(イケメン、美人女性がいてほしい)	

グループ F		テーマ1: 各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか?
まとめた意見		得票数
①	意識改革を上げる為に子供への教育と選挙情報、市報の充実を図る。	13
②	選挙を祭りに、イベント化する。興味がわく仕組みづくり。	10
③	投票時間の24時間、投票場所を増やす(駅前、コンビニ等)	5
残したい意見		
①	選挙作業の市民参加。	
②	現議員からの情報の場をつくる。	

【テーマ2】

隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？

グループ A テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？		得票数
まとめた意見		
①	転入者へのコミュニティへの参加へのきっかけを作る。	9
②	隣人を知るための情報交換の場を設ける。	5
③	地域住民による防犯を行うことや地域の行事を実施することで、コミュニケーションの場を増やす。	8
残したい意見		
①	なし	

グループ B テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？		得票数
まとめた意見		
①	ふれあいの家を活用して調布の古い文化を今に伝えたり、趣味の集いなどを通していい町づくりをする。	13
②	自治会、子ども会、勉強会を充実させる。(地域を知る会→神代植物公園、深大寺、味スタ)	5
③	年輩の方に教えてもらう場を作る。(仕事 子育て 精神的な面でも)(夫婦げんかの正しい仕方)	10
残したい意見		
①	挨拶の声かけ	

グループ C テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？		得票数
まとめた意見		
①	コミュニティの充実。例えば・・・”同じ環境の人々”と”誰でもOK”の「場」の提供。スポーツ・趣味でのつながり。	10
②	住民主体の災害対策。例えば・・・町内会単位での避難訓練。情報・機材は行政から。	7
③	もれなく町内会をつくる。例えば・・・転入時は「あなたの町内会は〇〇会です。」回覧板の復活、活用。	8
残したい意見		
①	会った人には「あいさつ」！地球は山と同じ。	
②	「多摩検定」。スポンサーを付けて「調布検定」も。	

グループ	D	テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	行政が住民に活動参加へのメニューづくり、呼びかけを積極的に行う。(今回のイベント)	9
②	地域参加が気楽・気軽にできるような仕組みを作る。(犬の散歩仲間、退職サラリーマン、独身者)	6
③	住民同士が仲良くなるためのイベントを行う。(公共施設、空き店舗、公園等を活用して)	2
残したい意見		
①	なし	

グループ	E	テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	交流の場をつくるリーダーが必要。地域の輪を広げるきっかけを作る。	11
②	コミュニケーションツールの1つとして通貨(仙川小判・深大寺小判)をつくる。(楽しく、目に見える形に)	11
③	老若男女がつくり、楽しく参加できるイベントを作る。趣味、お祭りの集まりを作る。	5
残したい意見		
①	ボランティア意識を向上させる。	
②	地域の人々に知らせる。	

グループ	F	テーマ2: 隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	『地域コミュニティの設置』が必要である。但し、問題点が多く実現するには「具体的な目標設定」や「動機づけ」が重要である。	6
②	「個(住民)」だけでは実現に限界がある。「公(市)」は、これを補完する役割を担う必要がある。→組織、システム作り	5
③	組織、システム作りの動機づけとして、具体的な例を挙げました。	2
残したい意見		
①	失われた「共同体」を再生するという観点から、教育とか人の心を変えていく必要がある。	

【テーマ3】

調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

グループ A		テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	今ある自然環境に人が集まって楽しめる場を提供する。(川沿いにレンタサイクル、休み処、カフェ、ドッグラン等)	10
②	京王線地下化を機に、道路整備と商業施設の再構築による人が集まる街づくり(参考例: 吉祥寺、二子玉川等)	2
③	映画やTVの製作地であることを広くアピールする。(ロケができる街づくり、メディアに取りあげてもらい、調布にゆかりのある有名人にPRしてもらう)	6
残したい意見		
①	神代植物公園にもっと市民開放日(無料)を設ける。	
②	お散歩マップを作る。	

グループ B		テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	現在ある農地を有効かつ適切に利用するための制度を作る	16
②	財政を上げるための、企業誘致および活性化	7
③	観光地を市外に向けてアピールする。国内に関わらず、海外にも！	1
残したい意見		
①	住みやすい街づくり(住環境の整備)	

グループ C		テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？
まとめた意見		得票数
①	調布の名所・観光スポットをPR(公共機関、コミュニティバスやFM放送の利用などに)すればもっと良くなる。	6
②	新しい駅ビルなどを活用したり、屋台村を作ったりすることで経済力を活発化させると良くなる(ゲゲゲの鬼太郎風の雰囲気統一など)	6
③	「調布に住んで良かった」と思えるお得感(子どもの医療費15才まで無料化など)を大人にも子どもにも感じてもらうと良くなる。	9
残したい意見		
①	市営レストランを作り、新転入者にふるまう「調布に来て良かった」と思える。	
②	伝統芸能に対する助成をもっとたくさんにすると子どもの教育に良い。	
③	調布から世界へ市民や子どもを留学させると魅力が高まる。	
④	調布を舞台に映画や小説を著名人に書いてもらう。	

グループ **D** テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

まとめた意見		得票数
①	「調布」の情報をPRする。→電車のつり広告や調布テレビ。メディアを上手に利用する。	5
②	「調布」ならではの名産品を市民が主体的となって、作る！→公募制で「調布幕の内弁当」ワンコイン500円	21
③	「調布」の目玉である自然を、もっと身近に活用できるようにする。→バーベキュー設備の充実、音楽イベントの場	4
残したい意見		
①	市民がよく利用する場(病院や市役所や干)にチラシ等の情報をはる。	
②	調布市内で買い物をする、「調布限定」のリピータークーポンがつく。←また調布に来たくなる。	

グループ **E** テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

まとめた意見		得票数
①	観光資源を差別化し、個性を発揮させることで街のイメージ作りをすると、魅力がより高まる。例、おしゃれ感アップ、メディア露出(成功例が高尾山)	7
②	もともと住んでいる人がこれからも住み続けたいと思えると魅力がより高まる。例、高負担(税)でも高福祉、駐輪場、保育所	9
③	観光資源が駅から遠い所にあるため、レンタル自転車や巡回バスで繋ぐことで魅力が高まる。	3
残したい意見		
①	観光ガイドや調布グルメガイドを作成することで魅力がより高まる。	

グループ **F** テーマ3: 調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

まとめた意見		得票数
①	調布の駅と周辺を使いやすく、美しくする。(エレベーター、エスカレーター、駅中しせつ)休けいできる場所をつくる。	10
②	観光資源をいかす。深大寺周辺の観光通りを広げる。多摩川の渡し舟復活。	4
③	文化活動をアピールする。映画村復活、近藤勇のキャラクター復活、調布のおみやげを宣伝する。	7
残したい意見		
①	旧甲州街道の照明を明るく、安全にする。	

(2) 討議の結果の分析（得票順）

テーマ毎に、「まとめた意見」を得票順に並べると次のとおりです。

【テーマ1】

各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？
（得票順）

得票数	まとめた意見	グループ
13	意識改革を上げる為に子供への教育と選挙情報、市報の充実を図る。	F①
11	選挙の手法(インターネット、電話)、場所、期間の拡充を図る。	A①
11	立候補者の考え方を詳細に載せた市民広報誌をコンビニなどに配布。	E②
10	選挙を祭に、イベント化する。興味がわく仕組みづくり。	F②
9	動機づけの工夫として、投票者へ啓発配布用品を渡す(ゴミ袋、図書カード、クオカードなど)	C③
9	投票所に行きやすくする為、投票所の増設やマイクロバスなどで向えに行く。	E③
8	政治の理解を深める為に、様々な教育機会を増やす。(小学校から。)政治家から子供を含む市民へのアプローチ。	D①
7	選挙の重要性を子供の時から教育する。	B③
7	投票するための情報を得るように広報のしかたを工夫する(活動内容を具体的に記載する)	C②
7	若者の投票率を上げる為に、インターネットで投票できる様にする。	E①
6	候補者の情報を決められた書式・機関にて提供し、情報量の増大も図る。	A②
6	短期的な啓発として選挙のイベント化を図り、選挙への関心を高める。長期的には教育ツールを利用した幼少時からの教育を実施することで根本的な意識改革を図る。	A③
6	関心を高めるために、候補者の情報を公共交通機関等で提供できるようにする。	B①
6	投票しやすくするために、期日前投票の①期間延長②時間の延長をする。ネット投票ができるようにする。	B②
5	投票者が行きやすいように駅、コンビニ、スーパー、OA機器で投票できるようにする。	C①
5	投票に行くとメリットがある。景品、割引券等	D③
5	投票時間の24時間、投票場所を増やす(駅前、コンビニ等)	F③
4	市民の生活スタイルに合わせた投票様式にする。期日前投票や駅前投票等	D②

【テーマ2】

隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？

(得票順)

得票数	まとめた意見	グループ
13	ふれあいの家を活用して調布の古い文化を今に伝えたり、趣味の集いなどを通していい町づくりをする。	B①
11	交流の場をつくるリーダーが必要。地域の輪を広げるきっかけを作る。	E①
11	コミュニケーションツールの1つとして通貨(仙川小判・深大寺小判)をつくる。(楽しく、目に見える形に)	E②
10	年輩の方に教えてもらう場を作る。(仕事 子育て 精神的な面でも)(夫婦げんかの正しい仕方)	B③
10	コミュニティの充実。例えば・・・”同じ環境の人々”と”誰でもOK”の「場」の提供。スポーツ・趣味でのつながり。	C①
9	転入者へのコミュニティへの参加へのきっかけを作る。	A①
9	行政が住民に活動参加へのメニューづくり、呼びかけを積極的に行う。(今回のイベント)	D①
8	地域住民による防犯を行うことや地域の行事を実施することで、コミュニケーションの場を増やす。	A③
8	もれなく町内会をつくる。例えば・・・転入時は「あなたの町内会は〇〇会です。」回覧板の復活、活用。	C③
7	住民主体の災害対策。例えば・・・町内会単位での避難訓練。情報・機材は行政から。	C②
6	地域参加が気楽・気軽にできるような仕組みを作る。(犬の散歩仲間、退職サラリーマン、独身者)	D②
6	『地域コミュニティの設置』が必要である。但し、問題点が多く実現するには「具体的な目標設定」や「動機づけ」が重要である。	F①
5	隣人を知るための情報交換の場を設ける。	A②
5	自治会、子ども会、勉強会を充実させる。(地域を知る会→神代植物公園、深大寺、味スタ)	B②
5	老若男女がつくり、楽しく参加できるイベントを作る。趣味、お祭りの集まりを作る。	E③
5	「個(住民)」だけでは実現に限界がある。「公(市)」は、これを補完する役割を担う必要がある。→組織、システム作り	F②
2	住民同士が仲良くなるためのイベントを行う。(公共施設、空き店舗、公園等を活用して)	D③
2	組織、システム作りの動機づけとして、具体的な例を挙げました。	F③

【テーマ3】

調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

(得票順)

得票数	まとめた意見	グループ
21	「調布」ならではの名産品を市民が主体的となって、作る！→公募制で「調布幕の内弁当」ワンコイン500円	D②
16	現在ある農地を有効かつ適切に利用するための制度を作る	B①
10	今ある自然環境に人が集まって楽しめる場を提供する。(川沿いにレンタサイクル、休み処・、カフェ、ドッグラン等)	A①
10	調布の駅と周辺を使いやすく、美しくする。(エレベーター、エスカレーター、駅中しせつ)休けいできる場所をつくる。	F①
9	「調布に住んで良かった」と思えるお得感(子どもの医療費15才まで無料化など)を大人にも子どもにも感じてもらうと良くなる。	C③
9	もともと住んでいる人がこれからも住み続けたいと思えると魅力がより高まる。例、高負担(税)でも高福祉、駐輪場、保育所	E②
7	財政を上げるための、企業誘致および活性化	B②
7	観光資源を差別化し、個性を発揮させることで街のイメージ作りをすると、魅力がより高まる。例、おしゃれ感アップ、メディア露出(成功例が高尾山)	E①
7	文化活動をアピールする。映画村復活、近藤勇のキャラクター復活、調布のおみやげを宣伝する。	F③
6	映画やTVの製作地であることを広くアピールする。(ロケができる街づくり、メディアに取りあげてもらい、調布にゆかりのある有名人にPRしてもらう)	A③
6	調布の名所・観光スポットをPR(公共機関、コミュニティバスやFM放送の利用などに)すればもっと良くなる。	C①
6	新しい駅ビルなどを活用したり、屋台村を作ったりすることで経済力を活発化させると良くなる(ゲゲゲの鬼太郎風の雰囲気統一など)	C②
5	「調布」の情報をPRする。→電車のつり広告や調布テレビ。メディアを上手に利用する。	D①
4	「調布」の目玉である自然を、もっと身近に活用できるようにする。→バーベキュー設備の充実、音楽イベントの場	D③
4	観光資源をいかす。深大寺周辺の観光通りを広げる。多摩川の渡し舟復活。	F②
3	観光資源が駅から遠い所にあるため、レンタル自転車や巡回バスで繋ぐことで魅力が高まる。	E③
2	京王線地下化を機に、道路整備と商業施設の再構築による人が集まる街づくり(参考例:吉祥寺、二子玉川等)	A②
1	観光地を市外に向けてアピールする。国内に関わらず、海外にも!	B③

(3) 討議の結果の分析（カテゴリー分類）

テーマ毎に、「まとめた意見」をカテゴリーに分類すると次のとおりです。

【テーマ1】

各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？

（カテゴリー分類）

カテゴリー・まとめた意見	得票数	構成比
場所・時間の工夫 a	47	34.8%
選挙の手法（インターネット、電話）、場所、期間の拡充を図る。	11	
投票所に行きやすくする為、投票所の増設やマイクロバスなどで向えに行く。	9	
若者の投票率を上げる為に、インターネットで投票できる様にする。	7	
投票しやすくするために、期日前投票の①期間延長②時間の延長をする。ネット投票ができるようにする。	6	
投票者が行きやすいように駅、コンビニ、スーパー、OA機器で投票できるようにする。	5	
投票時間の24時間、投票場所を増やす（駅前、コンビニ等）	5	
市民の生活スタイルに合わせた投票様式にする。期日前投票や駅前投票等	4	
啓蒙活動・教育 b	34	25.2%
意識改革を上げる為に子供への教育と選挙情報、市報の充実を図る。	13	
政治の理解を深める為に、様々な教育機会を増やす。（小学校から。）政治家から子供を含む市民へのアプローチ。	8	
選挙の重要性を子供の時から教育する。	7	
短期的な啓蒙として選挙のイベント化を図り、選挙への関心を高める。長期的には教育ツールを利用した幼少時からの教育を実施することで根本的な意識改革を図る。	6	
広報・情報提供の工夫 c	30	22.2%
立候補者の考え方を詳細に載せた市民広報誌をコンビニなどに配布。	11	
投票するための情報を得るように広報のしかたを工夫する（活動内容を具体的に記載する）	7	
候補者の情報を決められた書式・機関にて提供し、情報量の増大も図る。	6	
関心を高めるために、候補者の情報を公共交通機関等で提供できるようにする。	6	
付加価値を付ける d	24	17.8%
選挙を祭に、イベント化する。興味がわく仕組みづくり。	10	
動機づけの工夫として、投票者へ啓蒙配布用品を渡す（ゴミ袋、図書カード、クオカードなど）	9	
投票に行くとメリットがある。景品、割引券等	5	
合 計 (a+b+c+d)	135	100%

【テーマ2】

隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？

(カテゴリー分類)

カテゴリー・まとめた意見	得票数	構成比
交流の場・仕組みづくり a	66	50.0%
ふれあいの家を活用して調布の古い文化を今に伝えたり、趣味の集いなどを通していい町づくりをする。	13	
コミュニティの充実。例えば・・・”同じ環境の人々”と”誰でもOK”の「場」の提供。スポーツ・趣味でのつながり。	10	
年輩の方に教えてもらう場を作る。(仕事 子育て 精神的な面でも)(夫婦げんかの正しい仕方)	10	
地域住民による防犯を行うことや地域の行事を実施することで、コミュニケーションの場を増やす。	8	
住民主体の災害対策。例えば・・・町内会単位での避難訓練。情報・機材は行政から。	7	
地域参加が気楽・気軽にできるような仕組みを作る。(犬の散歩仲間、退職サラリーマン、独身者)	6	
老若男女がつくり、楽しく参加できるイベントを作る。趣味、お祭りの集まりを作る。	5	
隣人を知るための情報交換の場を設ける。	5	
住民同士が仲良くなるためのイベントを行う。(公共施設、空き店舗、公園等を活用して)	2	
行政の役割 b	37	28.0%
行政が住民に活動参加へのメニューづくり、呼びかけを積極的に行う。(今回のイベント)	9	
転入者へのコミュニティへの参加へのきっかけを作る。	9	
もれなく町内会をつくる。例えば・・・転入時は「あなたの町内会は〇〇会です。」回覧板の復活、活用。	8	
『地域コミュニティの設置』が必要である。但し、問題点が多く実現するには「具体的な目標設定」や「動機づけ」が重要である。	6	
「個(住民)」だけでは実現に限界がある。「公(市)」は、これを補完する役割を担う必要がある。→組織、システム作り	5	
リーダーの育成 c	11	8.3%
交流の場をつくるリーダーが必要。地域の輪を広げるきっかけを作る。	11	
コミュニケーションツールの作成 d	11	8.3%
コミュニケーションツールの1つとして通貨(仙川小判・深大寺小判)をつくる。(楽しく、目に見える形に)	11	
その他 e	7	5.3%
自治会、子ども会、勉強会を充実させる。(地域を知る会→神代植物公園、深大寺、味スタ)	5	
組織、システム作りの動機づけとして、具体的な例を挙げました。	2	
合 計 (a+b+c+d+e)	132	100%

【テーマ3】

調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？

(カテゴリー分類)

カテゴリー・まとめた意見	得票数	構成比
調布らしさの活用・創出 a	39	29.3%
「調布」ならではの名産品を市民が主体的となって、作る！→公募制で「調布幕の内弁当」ワンコイン500円	21	
観光資源を差別化し、個性を発揮させることで街のイメージ作りをすると、魅力がより高まる。例、おしゃれ感アップ、メディア露出(成功例が高尾山)	7	
文化活動をアピールする。映画村復活、近藤勇のキャラクター復活、調布のおみやげを宣伝する。	7	
観光資源をいかす。深大寺周辺の観光通りを広げる。多摩川の渡し舟復活。	4	
自然環境の利用 b	30	22.6%
現在ある農地を有効かつ適切に利用するための制度を作る	16	
今ある自然環境に人が集まって楽しめる場を提供する。(川沿いにレンタサイクル、休み処・カフェ、ドッグラン等)	10	
「調布」の目玉である自然を、もっと身近に活用できるようにする。→バーベキュー設備の充実、音楽イベントの場	4	
駅・中心市街地・商工業の活性化 c	28	21.1%
調布の駅と周辺を使いやすく、美しくする。(エレベーター、エスカレーター、駅中せつ)休けいできる場所をつくる。	10	
財政を上げるための、企業誘致および活性化	7	
新しい駅ビルなどを活用したり、屋台村を作ったりすることで経済力を活発化させると良くなる(ゲゲゲの鬼太郎風の雰囲気統一など)	6	
観光資源が駅から遠い所にあるため、レンタル自転車や巡回バスで繋ぐことで魅力が高まる。	3	
京王線地下化を機に、道路整備と商業施設の再構築による人が集まる街づくり(参考例:吉祥寺、二子玉川等)	2	
広報・PRの工夫 d	18	13.5%
映画やTVの製作地であることを広くアピールする。(ロケができる街づくり、メディアに取りあげてもらい、調布にゆかりのある有名人にPRしてもらう)	6	
調布の名所・観光スポットをPR(公共機関、コミュニティバスやFM放送の利用などに)すればもっと良くなる。	6	
「調布」の情報をPRする。→電車のつり広告や調布テレビ。メディアを上手に利用する。	5	
観光地を市外に向けてアピールする。国内に関わらず、海外にも!	1	
行政サービスの拡充 e	18	13.5%
「調布に住んで良かった」と思えるお得感(子どもの医療費15才まで無料化など)を大人にも子どもにも感じてもらうと良くなる。	9	
もともと住んでいる人がこれからも住み続けたいと思えると魅力がより高まる。例、高負担(税)でも高福祉、駐輪場、保育所	9	
合 計 (a+b+c+d+e)	133	100%

4. アンケート結果

アンケートは、参加依頼書を送付した時点、市民討議会当日のプログラム開始前の時点、市民討議会当日の全プログラムが終了した時点の3つの時点でアンケートを行いました。それぞれの集計結果は次のとおりです。

※構成比の合計は端数処理の為、合計が合わないことがあります。

◆参加依頼書アンケート集計◆

参加依頼書を送付した1,500人のうち、不参加の方々を対象としたアンケートです。296人から回答をいただきました。

1 「ちょうふ市民討議会2009」への参加依頼書を見たとき、どのように感じましたか？

回答項目	回答数	構成比
①面白そうだった	171	57.8%
②不安に思った	21	7.1%
③あまり関心が無いと思った	66	22.3%
④その他	38	12.8%
合計	296	100%

2 次回このような参加依頼書が届いたら、どうしますか？

回答項目	回答数	構成比
①日程が合えば参加する	127	42.9%
②テーマに興味があれば参加する	87	29.4%
③謝金が増えれば参加する	4	1.4%
④参加したくない	48	16.2%
⑤その他	30	10.1%
合計	296	100%

3 普段の会話で、政治や政策について話題に上ることがありますか？

回答項目	回答数	構成比
①ほぼ毎日	66	22.3%
②週に数回	117	39.5%
③月に数回	83	28.0%
④ほとんどない	30	10.1%
合計	296	100%

4 調布市の市政や地域の課題に関心がありますか？

回答項目	回答数	構成比
①非常にある	82	27.7%
②多少ある	198	66.9%
③ほとんど無い	15	5.1%
④全く無い	1	0.3%
合計	296	100%

5 市民の参加により、政治や政策がより良いものになると思われますか？

回答項目	回答数	構成比
①非常に良くなると思う	62	20.9%
②多少良くなると思う	182	61.5%
③ほとんど変わらないと思う	48	16.2%
④全く変わらないと思う	4	1.4%
合計	296	100%

6 あなたの年代は？

回答項目	回答数	構成比
20代	22	7.4%
30代	48	16.2%
40代	55	18.6%
50代	48	16.2%
60代	61	20.6%
70代	45	15.2%
80代以上	17	5.7%
合計	296	100%

7 あなたの職業は？

回答項目	回答数	構成比
学生	4	1.4%
会社員	86	29.1%
公務員	5	1.7%
自営業	23	7.8%
主婦	101	34.1%
無職	46	15.5%
その他	31	10.5%
合計	296	100%

8 あなたは（社）調布青年会議所をご存知でしたか？

回答項目	回答数	構成比
知っている	72	24.3%
聞いたことがある	109	36.8%
知らない	115	38.9%
合計	296	100%



◆参加者事前アンケート集計◆

参加者29人を対象に、市民討議会当日のプログラム開始前に実施したアンケート結果です。

1 基本情報

①あなたのお仕事について

回答項目	回答数	構成比
自営業	2	6.9%
会社員	11	37.9%
公務員	0	0%
専業主婦・主夫	5	17.2%
パート	3	10.3%
家事手伝い	0	0%
学生	1	3.4%
無職	6	20.7%
その他	1	3.4%
合計	29	100%

②調布にお住いになって何年くらい経ちますか？

回答項目	回答数	構成比
1年未満	0	0%
10年未満	9	31.0%
20年未満	6	20.7%
20年以上	14	48.3%
合計	29	100%

③参加依頼書を受け取った時、どのように思いましたか？

回答項目	回答数	構成比
選ばれて嬉しく思った	8	23.5%
興味を持った	13	38.2%
なぜ自分が選ばれたか不思議に思った	7	20.6%
何だかよく分らなかった	4	11.8%
その他	2	5.9%
合計	34	100%

「その他」の意見

- ・何をすれば良いのか、イマイチ分らなかった。
- ・今になっての事なので、どうしてかと思った。

2 市民討議会について

①「市民討議会」という市民参加の手法について

回答項目	回答数	構成比
よく知っていた	0	0%
聞いたことがあった	6	20.7%
今回初めて知った	23	79.3%
合計	29	100%

②「ちょうふ市民討議会2009」を広報で目にしたものについて

回答項目	回答数	構成比
市報	12	36.4%
市のホームページ	0	0%
調布市民討議会のホームページ	0	0%
ポスター	6	18.2%
チラシ	5	15.2%
その他	6	18.2%
無回答	4	12.1%
合計	33	100%

「その他」の意見

- ・目にしたことがない。(同回答4通)
- ・依頼書で初めて知った。(同回答2通)

③住民基本台帳から無作為抽出して参加依頼書を送付することについて

回答項目	回答数	構成比
無作為抽出の方法は良いと思う	23	76.7%
公募が良いと思う	5	16.7%
その他	1	3.3%
無回答	1	3.3%
合計	30	100%

「その他」の意見

- ・若い人が少ないので、もう少し多くなるようにしたほうが良いと思う。

3 ご参加頂けた理由について

回答項目	回答数	構成比
無作為抽出により選出され依頼書が届いたから	18	25.4%
テーマに興味があったから	9	12.7%
参加者報酬（謝礼）があったから	10	14.1%
会場が近かったから	11	15.5%
市民活動を始めてみたいと思ったから	7	9.9%
討議した意見が市政に届けられるから	12	16.9%
その他	4	5.6%
合計	71	100%

「その他」の意見

- ・単純に面白そうだったから。
- ・高齢者として意見が述べられる機会だから。
- ・調布駅中心の地下化に伴い大きく変わろうとしているから。

4 開催日数や開催時期などについて

①日数について

回答項目	回答数	構成比
1日間が適当	15	51.7%
2日間が適当	13	44.8%
もっと長いほうが良い（3日以上）	0	0%
無回答	1	3.4%
合計	29	100%

②開催する曜日・時間について（2日間開催とした場合）

回答項目	回答数	構成比
両日とも土日休みが良い	13	38.2%
両日とも平日昼間が良い	3	8.8%
両日とも平日夜間が良い	1	2.9%
1日を平日昼間とし、もう1日を土日休みが良い	2	5.9%
1日を平日夜間とし、もう1日を土日休みが良い	4	11.8%
連続の2日間ではないほうが良い	6	17.6%
両日ともどの曜日・時間でも良い	4	11.8%
無回答	1	2.9%
合計	34	100%

③開催する時期について

回答項目	回答数	構成比
1～3月頃が良い	0	0%
4～6月頃が良い	1	3.4%
7～9月頃が良い	1	3.4%
10～12月頃が良い	7	24.1%
どの時期でも良い	17	58.6%
無回答	3	10.3%
合計	29	100%

5 参加者報酬（謝礼）について（2日間開催とした場合）

回答項目	回答数	構成比
3千円程度が適当	1	3.4%
5千円程度が適当	15	51.7%
1万円程度が適当	6	20.7%
謝礼金は必要ない	3	10.3%
無回答	4	13.8%
合計	29	100%

欄外意見

- ・ 7千円。
- ・ 7～8千円。なぜなら1.5日だから。
- ・ 分らない。とても難しい。

- ・あまり多額だと報酬目的の人が増えるから、5千円程度が適当。

6 市民参加の状況等について

①あなた自身は市民参加に関心がありますか？

回答項目	回答数	構成比
非常にある	7	24.1%
多少ある	19	65.5%
ほとんどない	1	3.4%
全くない	0	0%
無回答	2	6.9%
合計	29	100%

②あなたは今までに地域における市民活動に関わったことはありますか？

回答項目	回答数	構成比
ある	12	41.4%
ない	15	51.7%
無回答	2	6.9%
合計	29	100%

6の②で「ある」とお答え頂いた方で、この1年間に地域の活動（自治会・地区協議会・ボランティア活動・NPO活動・サークル等の生涯学習活動など）に参加したことがありますか？

回答項目	回答数	構成比
ほぼ毎日参加している	0	0%
週1回から月1回程度参加している	4	33.3%
年に数回程度参加している	3	25.0%
ほとんど参加していない	5	41.7%
合計	12	100%

③これまで、調布市が市民を対象に実施する委員会や説明会、アンケート調査などに参加したことはありますか？

回答項目	回答数	構成比
ある	5	17.2%
ない	22	75.9%
無回答	2	6.9%
合計	29	100%

④今回のように無作為抽出などにより参加を直接呼び掛ける方法は、市民の参加意識を高めることに効果があると思いますか？

回答項目	回答数	構成比
ある	24	82.8%
ない	3	10.3%
無回答	2	6.9%
合計	29	100%



◆参加者事後アンケート集計◆

参加者27人を対象に、市民討議会当日の全プログラム終了後に実施したアンケート結果です。

1 「討議方法」の説明について

回答項目	回答数	構成比
わかりやすい	17	63.0%
普通	9	33.3%
わかりにくい	0	0%
無回答	1	3.7%
合計	27	100%

2 討議進行での「補助係」について、どう思いましたか？

回答項目	回答数	構成比
必要と思った	20	74.1%
最初は必要だが、後は必要ないと思った	6	22.2%
必要ないと思った	1	3.7%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・もっと話して欲しいと思いました。

3 「情報提供」について（複数回答可）

- ① テーマ1「各種選挙の投票率をもっと上げるにはどうしたら良いでしょうか？」
の情報提供について

回答項目	回答数	構成比
情報は有益だった	24	80.0%
内容が偏っていた	2	6.7%
わかりにくかった	2	6.7%
討議の参考にならなかった	2	6.7%
合計	30	100%

■ 欄外意見

- ・情報は有益だったが、影響を受けやすくなる（よし悪しは別）。

②テーマ2「隣人と助け合える地域をつくるにはどうしたら良いでしょうか？」の
情報提供について

回答項目	回答数	構成比
情報は有益だった	27	93.1%
内容が偏っていた	0	0%
わかりにくかった	0	0%
討議の参考にならなかった	2	6.9%
合計	29	100%

③テーマ3「調布の魅力を高めるにはどうしたら良いでしょうか？」の情報提供に
ついて

回答項目	回答数	構成比
情報は有益だった	25	89.3%
内容が偏っていた	1	3.6%
わかりにくかった	0	0%
討議の参考にならなかった	2	7.1%
合計	28	100%

■ 欄外意見

- ・調布市が作ったビデオだけだったので、テーマ1・2のような客観のお話があってもよかったかも。

4 「話し合い」の手法について

①話し合いについて

回答項目	回答数	構成比
意見を出しやすかった	27	100.0%
意見を出しにくかった	0	0%
合計	27	100%

②図を作成してまとめる方法について

回答項目	回答数	構成比
まとめやすかった	23	85.2%
まとめにくかった	4	14.8%
合計	27	100%

③市民が少人数のグループ（５人程度）によって討議し、結論を出していくことについて

回答項目	回答数	構成比
かなり高い効果が望める（１人１人の発言を引き出せる。比較的複雑な討議も可能である 等）	15	55.6%
ある程度効果が望める（全員の発言・参加は難しい。Yes・Noのような単純な討議に向いている 等）	11	40.7%
ほとんど効果が望めない（意欲や専門性が高い専門家や公募市民による議論の方がよい 等）	1	3.7%
分からない	0	0%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・市内在住の有識者・学者などを行政機関がピックアップしてもらいたい。

5 討議の結果について

回答項目	回答数	構成比
十分な提案ができた	19	70.4%
十分な提案ができなかった	7	25.9%
無回答	1	3.7%
合計	27	100%

「十分な提案ができなかった」理由について（複数回答可）

回答項目	回答数	構成比
現状に対する理解の不足	4	36.4%
専門知識の不足	2	18.2%
アイデアが出なかった	1	9.1%
討議をまとめきれなかった	0	0%
その他	4	36.4%
合計	11	100%

「その他」で出た意見

- ・口べたなのでなかなか意見が言えなかった。
- ・反論できないために妥協するしかなかった。
- ・テーマによってはもっと深く話し合えばもっと良い案が出るように思いました。
- ・現状に満足している。

6 「討議時間」について

回答項目	回答数	構成比
1時間ぐらいが適当	20	74.1%
もっと長い方がよい	7	25.9%
もっと短い方がよい	0	0%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・ 同じ内容で、もっと話を膨らませ、何度か討議をしても良いのかも。

7 「発表時間」について

回答項目	回答数	構成比
3分ぐらいが適当	27	100.0%
もっと長い方がよい	0	0%
もっと短い方がよい	0	0%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・ 3分以上のところが多かったように思える。

8 「投票数」について

回答項目	回答数	構成比
5票が適当	24	88.9%
もっと多い方がよい	1	3.7%
もっと少ない方がよい	1	3.7%
無回答	1	3.7%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・ 他に聞いていた人も参加してはいかがでしょうか。

9 「開催日数」について

回答項目	回答数	構成比
2日間が適当	14	51.9%
短い方がよい	13	48.1%
長い方がよい	0	0%
合計	27	100%

「短い方がよい」理由

- ・土・日の両日だと生活に響くため。
- ・土日の両日はキツイ。
- ・土日の連続した2日間だと少し厳しい。
- ・1日で集中的に行なった方がよい。
- ・短い方がより多くの参加が出来るのでは。
- ・2日目に疲れが出る。
- ・体力的。
- ・体調の不具合により。
- ・2日間は、子供がいると大変。
- ・事前に資料を確認して、発表だけでもよい。
- ・1テーマ、1日が良いのでは。
- ・休日2日間は負担に感じる。1日じっくり2テーマぐらいが適当では。

「長い方がよい」理由

- ・なし

■ 欄外意見

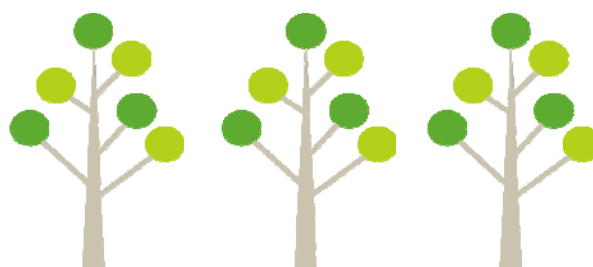
- ・1日では十分な提案が出来ないと思う。

10 参加者報酬（謝礼金）について（今回の参加をうけて）

回答項目	回答数	構成比
3千円程度が適当	1	3.7%
5千円程度が適当	17	63.0%
1万円程度が適当	6	22.2%
謝礼金は必要ない	1	3.7%
無回答	2	7.4%
合計	27	100%

■ 欄外意見

- ・7～8千円。
- ・多額であると、討議に積極的でない人が参加してくると思われる。



1.1 参加意識の変化等について

①市民討議会に参加して、調布市の地域や行政への関心は高まりましたか？

回答項目	回答数	構成比
非常に高まった	16	59.3%
多少高まった	11	40.7%
ほとんど変化ない	0	0%
関心は低くなった	0	0%
合計	27	100%

②市民討議会に参加して、あなた自身の市民参加や地域活動への意欲は高まりましたか？

回答項目	回答数	構成比
非常に高まった	13	48.1%
多少高まった	14	51.9%
ほとんど変化ない	0	0%
意欲は低くなった	0	0%
合計	27	100%

1.2 再び市民討議会を開催する場合の実施主体について

回答項目	回答数	構成比
公募市民による実行委員会が実施主体となるべき	6	20.0%
市が実施主体となるべき	2	6.7%
研究機関やコンサルティング会社等、第三者機関が実施主体となるべき	2	6.7%
今回のように（社）調布青年会議所が主体となって、市との共催で実施するべき	20	66.7%
合計	30	100%

※「複数回答可」でないが、回答が複数あったものもあり。

■ 欄外意見

- ・ 行政色が強くなりすぎるのは、好ましくないと思われる。
- ・ 全てではなく、たまに第三者機関を利用してはどうか。
- ・ 市と共催で公募市民による実行委員会が実施主体となるべき。

13 今回の「市民討議会」に参加して

①参加して楽しかったですか？

回答項目	回答数	構成比
楽しかった	20	74.1%
まあまあ楽しかった	7	25.9%
つまらなかった	0	0%
合計	27	100%

②会場の雰囲気はいかがでしたか

回答項目	回答数	構成比
よかったと思う	27	100.0%
どちらともいえない	0	0%
よくなかった	0	0%
合計	27	100%

③次回、市民討議会を開催する場合にご協力いただけるでしょうか？

回答項目	回答数	構成比
協力したい	24	88.9%
どちらともいえない	3	11.1%
協力できない	0	0%
合計	27	100%

■欄外意見

- ・協力したいと思うが、同じ人ばかりやるより他の人が参加できる工夫をしたほうがよいと思う。

ご協力いただく場合、連絡させていただいてもよろしいでしょうか？

回答項目	回答数	構成比
連絡してもよい	22	88.0%
連絡はしないでほしい	0	0%
無回答	3	12.0%
合計	25	100%

※「どちらともいえない」の回答者より「連絡してもよい」に入票。

■ 欄外意見

- ・連絡してもよいが、選出にあたっては今回のような無作為のやり方を何回か続けた方がよいと思う。

④ 次回、市民討議会を開催するとしたら、どのようなテーマを希望しますか

- 行政（サービス）に望むこと。市議会（議員）に望むこと。
- 今回のテーマをさらに具体化した内容など。
- 街の美化について市民が意識を持って欲しい。
- 調布市の税金の使い方（予算内訳）
- 調布市として、どのような行政サービスが適当か。
- 市政（教育・福祉）に関すること。
- よりよい子育てや教育。
- 調布の活性化。
- 地域の人々のコミュニケーションのやり方が、どうすれば向上できるのか。
- 税金の仕組みと負担について。
- 議会で決定した内容の検証およびこれから決定する様な案件の討議。
- 個別のテーマを更に深く討議できればと思います。他のテーマでは、インフラ系・教育・商業活性化・街のカラーetc。
- 調布市の活性化や調布市の観光マップ作成。
- 市議会や市職員の活動状況。
- 市民の高齢化に対するハード面、ソフト面の充実を市としてどうするべきか。
- 若い世代の方々が数多く参加できる討議会を、調布の将来像をどう考えるか。
- 今回のテーマから、より具体的に掘り下げて討議したい。例えば、魅力を高めるための施設を具体的に、市のPR方法を具体的に、どんなコミュニティーをつくるか、選挙の投票キャンペーン案を考えるなど。
- 調布の景観について。
- 市の活性化や高齢化に関するテーマ（福祉・介護保険などについて）。
- 住みやすい町にするためには、どうしたらよいか。
- 調布のイベント企画、和やかなテーマ（難しいテーマで意見し合うより楽しいテーマの方がアイデアが出たので）。
- 調布市をどのように動かしていくか、どこに向かうべきか（主体者の問題。国や都との関わりの問題）。
- 今回の様な事でよいのではないでしょうか。
- これからますます高齢者が多くなりますので、若い人達と高齢者の人が仲良く出来るようなテーマでお願いします。

- 幼児、小、中、高校生位の子供の心身が良好に育て上げる多くの人の協力について。
- 老人介護の問題や医療の問題。

1 4 その他ご意見がありましたらお書きください

- こういった会に参加するのは初めてでしたが、想像よりも皆さんと楽しくお話できてよかったです。市民の声が直接やり取りできることは、とてもいいことだと思いました。(追伸：託児所でも、とてもよく面倒を見て下さり、子供も喜んでいました。2日間ありがとうございました。)
- 少なくとも年1回ぐらいは男女、市民から選んで調布をよりよくして下さい。今日は、有難うございました。
- 2回ほど批判を受けました。理想や仮定で話をしているのに困りました。
- 「進行の人にもう少しフォローしてもらえればな」と思いました。
- その他、とても有意義な討論でした。
- 市長の話は余分でした。夢が壊れた気がしました。
- 青年会議所の代表の方は、とても素晴らしい姿勢でお話されたと思います。
- 非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。様々な年齢層の方から意見をお聞きでき、考える場を持つというのは今後の意識付けとして非常に有効だと思います。今後も是非多くの方への参加を呼びかけていただきたいです。
- もっと若い人が参加したり、ここから次のつながりが持ちやすければいいと思いました。
- 今回参加して、とても勉強になりましたし、楽しかったので、また何かのかたちでお手伝いができるようにしたいです。ありがとうございました。
- 今回の試みが市政にどのように反映される(された)のか、結果について知りたいと思う。行政側として期待以上だったのか以下だったのか、反省点も踏ま

えて次回につなげてもらいたい。

○色々な方の意見が聞けて良かったです。地域や行政への関心が高まったと思います。この様な討議会の意見が市政に反映できるようにお願いします。

○子供にも参加させたい（中学生以上）。

○今回、討議会に参加された方は意識向上している為、このまま各地域のコミュニティへ参加する様、ある程度の道筋を見せるべき。

○とても良い機会をいただきよかったです。今後も更に継続、発展される事を期待しております。私も機会があれば積極的に関わっていこうと思います。

○私も今までこういう会に出る機会が無かったので最初はとまどったのですが周りの方の雰囲気に乗せられて、非常に楽しく過ごせました。

○6つのグループに分かれての話し合いでしたが、皆さんの意見が多数重複しているのが面白かったです。また、限られた時間の中でいかにスムーズに結論を出すかという勉強になりました。

今回は女性の数が多かったですが、それでも20代～80代迄の世代の方達と話し合いができて、とても貴重な経験でした。

○社会心理学者（市内在住）などを市から委嘱して市の課題についてご意見を伺う機会をつくれたらと思います。

○今回のような機会に出会えましたこと、感謝しています。より多くの方がこのような場に参加できたら調布は、その時に「変わっていく」きっかけを得るのだと思います。

○ありがとうございました。

○今回の課題と全く違う事ですが、各資料の公共資料等の「トジ方」を縦書きと横書きについて「正しいトジ方」をお願いいたします。当方、右トジか左トジかが正しくわかりませんので宜しく。

○ヘルパー派遣の事で意見があります。(地域包括の件も)

○今回の討議会は、ある意味無責任に自由奔放に言いたいことを言う場だと思っていたが、今回のように「役割」として作業分担を与えられると、それが心理的圧力となり、そちらに力を奪われ疲れる。我々側の自由な意見のグルーピング、カテゴライズまとめ作業はスタッフが行なうわけにはいかないだろうか。議論の内容が単なる「具体案の案出しブレスト」なのか、もっと本質的な議論に踏み込んでよいのか分からなかった。今回は極端的には、どうも前者のようだったが、個人的にはもっと後者の議論を深めたかった。次回以降、そこは明確にする必要があるのではないか。

○調布青年会議所の皆様、2日間ありがとうございました。

○目の前に80歳という年齢でいて、この様な若い人、各世代別の討議会に選ばれました事は明日からの元気に繋ぐ事が出来ます。感謝申し上げます。私自、地域の中で小さなボランティアをしておりますが、その為にも今回のすべての事は大変に良かったです。

○差し入れや音楽など、気を遣っていただけましたのでリラックスして討議に臨めました。情報提供をしてくださった先生方のお話がわかりやすく、考えさせられる内容でした。補助係の方は討議方法の説明などを親切にしてくださり、大変助けていただけただけなのですが、討議の内容に話を突っ込まれると班全体の流れが補助係のおっしゃった方に傾いてしまいますので、内容までは持っていかないで欲しかったことも、恐縮ながら思いました。



5. 市民討議会の検証と今後の課題

今回の市民討議会は調布市で初めての試みであり、市民の声を拾い上げ、行政に届けることに加え、市民討議会という手法そのものが市民参加として有効であるかを検証することも大きな目的として実施しました。

ここでは、今後、市民討議会を継続的に開催していくために、今回の取組をさまざまな視点から振り返り、評価・検証を加えることで、今後の課題などをまとめています。

(1) 無作為抽出による参加者募集について

今回の市民討議会においては40人の参加者を求め、住民基本台帳を元に無作為抽出にて20歳以上の1,500人を選出し、参加依頼書を送付しました。無作為抽出を行う際に配慮した点は、平成21年9月現在の住民基本台帳人口の年齢構成や男女比と同じ比率で抽出を行ったことです。結果46人の市民から参加の意思表示があり、厳正なる抽選をもって40人の参加者を決定しました。参加の意思表示をした市民が1,500人のおよそ3%にあたる46人となったことは、他地域と比べ平均的な数値と言えます。

一方、40人の参加者を決定した後に11人の辞退者があり、結果として、当日は29人の参加者となりました。この結果を踏まえると補欠参加者を決めておくことも今後の課題と言えます。

無作為抽出により参加者を選出する方法については、アンケート結果から、8割を超える方が参加意識を高めることに効果があると回答していることや、今回の参加者の8割弱の方が今まで市民参加の経験がない方であったことから、有効な方法であると言えます。

参加者29人の構成は次のとおりです。※（ ）内は参加決定者40人の構成

年齢別 (歳)	人口構成	参加者			
		男(人)	女(人)	計(人)	構成
20～29	17.0%	0(0)	4(5)	4(5)	13.8%(12.5)
30～39	21.7%	2(2)	4(5)	6(7)	20.7%(17.5)
40～49	18.1%	3(6)	3(4)	6(10)	20.7%(25.0)
50～59	13.4%	2(2)	0(3)	2(5)	6.9%(12.5)
60～69	14.0%	0(2)	4(4)	4(6)	13.8%(15.0)
70以上	15.8%	5(5)	2(2)	7(7)	24.1%(17.5)
合計	100%	12(17)	17(23)	29(40)	100%(100)

※人口構成は、住民基本台帳人口の20歳以上の構成比率となっています。

評価できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調布市人口の特性に近い参加者が構成できる。 ・ 市民の参加意識を高めることができる。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20代～30代男性の参加率が低い。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者をより市民特性に近づけるためには、無作為抽出の人数を増やし、参加意思決定者を多くすることも必要。 ・ 参加決定通知後に欠席者が出る可能性があるため、補欠参加者を作った方がよい。

(2) 報酬について

市民討議会のもととなる、「プランクスツェレ (Planungszelle)」においては、4日間開催のため参加市民の負担を考慮し報酬が支払われることとなっています。これにより、参加市民においても、プランクスツェレへの出席が「公務」であるとの認識が高まり、積極的な参加が実現されています。これを踏まえ、日本で開催される市民討議会においてもほぼ全てにおいて報酬が支払われており、今回の市民討議会においても報酬を支払うこととしました。

金額については、他地域での事例を調査した上で、参加意識を高め、責任ある意見を引き出すための適切な額として、2日間の参加を条件に5,000円と決定しました。

アンケートでは、5,000円が適当とする回答が約63%あり、1万円以上が適当という回答も約22%ありましたが、『多額であると、討議に積極的でない人が参加してくると思われる』という意見にもあるとおり、今回の討議内容、拘束時間に対しては、妥当な金額と評価できます。

なお、参加理由に「参加者報酬(謝礼)があったから」と回答した人は約14%でした。

評価できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報酬を支払う場合の金額の妥当性。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報酬を支払うことは継続した検証が必要。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「報酬を支払う」ことが一種の慣例となっはいるが、支払わないことにした場合、もしくは金額を下げた場合、上げた場合に、参加者数や参加者層、参加者の討議への姿勢にどのような変化が見られるかを検証していく必要がある。

(3) 日程について

市民討議会は、既に他地域においては開催事例があり、市民討議会という仕組み自体はほぼ出来上がっていましたが、調布市においては初の取組みであり、調布JC・調布市・公募市民からなる実行委員会において、全てにおいて丁寧な議論を積み重ねながら行う必要がありました。



そのため、開催を11月とし、3月の協定書の締結から十分な準備期間をとることとしました。

開催を2日間としたのは、開催初日は討議手法の説明など、討議手法に慣れてもらうための時間を設ける必要があり、市民討議会の特徴である「情報提供→話し合い→意見集約→発表」という時間を要するサイクルを大事にするために、2日間の開催が必要でした。また、より多くの参加者を募るために、比較的休日の方が多く土日昼間の開催としました。

開催日数の妥当性について、アンケート結果では「2日間が適当」「短い方がよい」とほぼ同数でしたが、連続した土日の2日間の開催については、参加者の体力的な問題や貴重な休日の2日間を使うことでの負担感の面から、今後は月をまたいでの2日開催とするなど、参加者が参加しやすい環境を考慮する必要があると考えます。

開催時期については、今後「広く市民の声を行政の施策に反映させる」ことを目的としたテーマで市民討議会を行う場合には、それに応じた検討が必要です。

評価できること	<ul style="list-style-type: none">・長い準備期間を設け、実行委員会において丁寧な議論の積み重ねを行うことができた。・開催を2日間とすることで、3つのテーマの討議を行うことができた。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・連続した土日2日間の開催は、参加者の負担になる。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・参加者の負担に配慮した開催日程を検討する。・準備期間を短縮し行政の政策計画過程のタイミングに合わせた開催も視野に入れる必要がある。

(4) 討議回数及びタイムテーブルについて

討議回数は、テーマのタイムテーブルや参加者の体力面を考慮し、1日目の午後から1回、2日目に午前、午後各1回の計3回としました。休憩や昼食時間を十分にとることで、ゆとりある雰囲気をつくり、参加者同士のコミュニケーションが深まったことは、討議の活性化にも効果がありました。

タイムテーブルは、参加者の体力や集中力を考慮し、補助係の説明から発表・投票までのサイクルを85分と設定しました。この中で、意見抽出に最も重要となるブレインストーミング、KJ法によるグルーピング、発表の準備には50分を配分しました。アンケートでは、話し合いの時間について1時間ぐらいが適当という回答が4分の3を占めていることから、タイムテーブルは妥当でした。しかし、4分の1の方がもっと長い方がよいと回答していることを考慮するとテーマによっては話し合いの時間を工夫することも必要です。

評価できること	<ul style="list-style-type: none">・ 余裕あるプログラムとしたことで、和やかな雰囲気をつくりだせ、参加者のコミュニケーションが深まり、活発な討議が行われた。・ 1日目を1回の討議とし、丁寧に対応したことで、2日目の2回の討議は円滑に行われた。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢の参加者もいるため、休憩時間等体力面に配慮した討議回数及びタイムスケジュールの検討が必要。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・ タイムテーブルをテーマ毎に設定することも検討する。・ 話し合いの時間の長さを検討する。

(5) テーマ及び情報提供について

テーマ選定に当たっては、今回の市民討議会が調布市で初めての開催ということもあり、第一に、参加者全員に関連し、話しやすいテーマであること、第二に、市民討議会の実施後に参加者自らが行動に移しやすいテーマであること、の2点を基本姿勢に3つのテーマを選定しました。選定には、実行委員会において、ブレインストーミングやKJ法を活用するなど、議論に議論を重ね、討議が活発に行えるようテーマを決定しました。アンケートでは、参加理由にテーマへの興味を挙げた方が約30%いることから、テーマは単に討議の対象となるだけでなく、参加意識を高める効果があることが分かります。

一方、討議の重要なポイントとなる情報提供については、参加者の考えに偏り

を生じさせず、中立的に客観的事実を中心とした情報提供が行えるよう情報提供者を選定しました。アンケートでは、8割から9割の方から情報提供は有益であったとの回答を得ましたが、一部には、『討議に影響を受けやすくなる』との回答があることや、情報提供が討議の内容を左右する重要なポイントであることを考慮すると、情報提供者の人選も含め情報提供には十分な検討及び配慮が必要です。

評価できること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活発な討議と参加者の意識改革につながる討議テーマを選定したこと。 ・ 中立的な情報提供を行えたこと。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりさまざまな角度からの情報提供が行えるようにすること。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 似ている複数のテーマを取り上げる場合は、同じ議論が繰り返されることになりかねないため、模擬討議を行うなど、詳細な部分までを検討し、最適なテーマ設定を行う必要がある。 ・ あくまでも中立的な情報提供を徹底すること。



実行委員会でのKJ法を用いたテーマ選定の様子

(6) グループ討議の方法について

グループ討議は、1グループを5から6人とし、年齢の偏りがないうバランスに配慮した構成としたほか、討議を活性化させるため、テーマ毎にメンバーを入れ替えました。また、意見抽出の手法には、他地域の事例を踏まえ、意見の引出しとまとめに最適とされるブレインストーミングとKJ法を採用しました。

グループメンバーは付箋を使って1つずつ意見を書き出し、同じような意見の付箋をグルーピングした後に「まとめた意見」として3つ以内の意見にまとめました。また、「まとめた意見」とは別に「残したい意見」欄をつくり、少数意見の抽出も行いました。アンケートでは、ブレインストーミングは参加者全員から意見を出しやすかったという回答を得られた一方、グループメンバーの中で互いの意見に批判的な発言が出る場面も一部に見受けられました。また、KJ法についても多数の方からまとめやすかったという回答を得られましたが、一部にはまとめにくかったという回答もありました。

グループメンバーは、進行係、まとめ係、書記係、発表係、タイムキーパーのいずれかの役割を必ず担当するルールとしました。これにより、幅広い年齢層が混在するグループにおいて、ただ言いっぱなしで終わるのではなく、お互いの意見を尊重しながら、市民自らの手で合意形成がなされました。このことから、参加者に役割を持たせることは、市民の主体性を引き出す方法として有効であると言えます。一方で、ジャンケンで役割を決めるルールになっていたにも関わらず、公平な役割分担がなされていない傾向がありました。

全体としては、市民が少人数のグループによって討議し、結論を出していく今回の方法については、アンケートからも、大多数の参加者から効果が望めるという回答がありました。

評価できること	<ul style="list-style-type: none">・意見が出しやすい。・テーマに対しての結論が導きやすい。・市民の主体性を引き出したこと。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・役割分担に偏りが生じたこと。・他人の意見への批判が見受けられたこと。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・ブレインストーミングのルール説明をより丁寧に行う。・参加者が意見の出し方、ルール、グルーピングを理解していない場合、テーブル補助係が速やかに助言することが必要。

(7) 当日の運営及び会場について

当日の運営スタッフの役割分担としては、実行委員会メンバーが主にテーブル内補助、事務局メンバーが司会・説明・進行管理、調布JCメンバーがテーブル外補助や進行補助を担当しました。当日、討議間の設営において、実行委員長自身が動いてしまっていた場面が多々見られ、当日の段取りを把握しているメンバーを拡充し、よりスムーズな運営ができることが必要です。

会場の調布市市民プラザあくろすは、多様な市民活動を支援する拠点施設であり、市民討議会に適した施設であることや、立地が調布市の中心に位置する国領駅の駅前と来場しやすい場所であったことから、選定しました。また、子育て中の方も参加しやすいように保育室を用意し、保育士2人を配置しました。2人の利用がありましたが、アンケートで好意的な感想をいただきました。

傍聴には10人以上の方が来場され、傍聴席を設置したこと自体は良かったのですが、討議会中に席を離れ、各テーブルを回りのぞき込んでいた方がいたことについて、『討議に集中できない』という

参加者からの苦情もあり改善が必要です。その他、休憩時間のBGMや「調布のお菓子」の提供は、会場の雰囲気や和らげ、参加者のコミュニケーションと討議の活性化に効果がありました。



評価できること	<ul style="list-style-type: none">・会場を調布市市民プラザあくろすにしたこと。・保育室、傍聴席を設置したこと。・BGMや調布のお菓子により、雰囲気づくりを行ったこと。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・運営スタッフの配置。・傍聴席を離れ、各テーブルをのぞき回っていた方がいたこと。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・討議会中の設営（運営）メンバーの拡充と適切な配置。・傍聴のルールを徹底すること。・障がい者にも配慮した運営を検討すること。

(8) 実行委員会について

今回の市民討議会は、企画立案から当日の運営、報告書の作成・提出に至るまでを実行委員会方式で行いました。実行委員会の構成は、調布JC会員5人、調布市職員5人、公募市民2人の計12人（男11・女1）としたほか、サポート

役として調布JC会員10人から成る事務局を設けました。

会議では、ワークショップ手法を用いるなど自由な発言と民主的な合意形成を行ったとともに、開かれた会議とするため、傍聴席の用意や議事録をホームページで公開するなど、透明性の確保にも努めました。会議は開催までに全13回開催したほか、メーリングリストを活用するなど、会議以外での情報共有にも努めました。仕事を持っている委員がほとんどであったため、会議は夜間に集中し、長時間に及ぶこともありましたが、市民視点を基本に熱く活発な議論が行われました。

実行委員会方式で市民討議会を開催した効果の一つに、参加者の主体性を引き出したことが挙げられます。市が単独で実施する市民参加と比べ、市民中心の実行委員会が主催者となったことで、開催当日は主催者と参加者の一体感から「まちづくりの主体は市民」という雰囲気醸し出され、その中で討議が進んだことは特筆すべき点です。このことはアンケートにおいても、「市民討議会に参加して、調布市の地域や行政への関心は高まりましたか」の質問に、全参加者が「高まった」と回答していることや、市民討議会の実施主体に関する質問では、「青年会議所が主体となって市との共催で実施すべき」と「公募市民による実行委員会が実施主体となるべき」と回答した人の割合が合わせて85%を超えたことにも表れています。

行政が市民参加機会を提供することが一般的な昨今において、市民、調布JC、調布市が協働によって市民参加機会を創出した今回の実行委員会は、まちづくりに市民の主体的な関わりが欠かせない地方分権時代において、時代の要請に応える取組であるとともに、今後の市民主体のまちづくりの可能性を広げる取組として、高く評価できると言えます。

評価できること	<ul style="list-style-type: none">・公募市民、調布市、調布JCの協働により、市民討議会を企画・開催したこと。・ワークショップ手法を用いた民主的な会議としたこと。・メーリングリストなどの活用により情報共有を徹底したこと。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・会議回数が多く、夜間に集中し長引くことで委員の負担が大きい。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・実行委員会の人数、構成、男女比を検討する。・会議回数や会議のルールを事前に協議し、徹底する。・市民の主体性を引き出すために公募市民を増やす。

(9) 予算について

予算は調布ＪＣと調布市が分担しました。双方の協議により、予算総額は７０万円とし、うち５５万円を調布ＪＣ、１５万円を調布市が負担することとしました。

一方、決算総額は約４９万円となり、主な経費として、参加者への謝礼金や食事代に約２０万円、無作為抽出による参加依頼書などの郵送料が約１１万円となり、これら市民討議会の特徴ともいえる経費が全体の６割強を占めています。

郵送料は、参加依頼書の発送にバーコード割引（１通５５円）を利用したことや申込書の返信用封筒に受取人払郵便（使用時のみ課金）を利用するなど、経費の抑制に努めました。

予算を分担したメリットとして、調布ＪＣと調布市の責任意識を同じレベルで共有できたこと、調布市の共催により会場費がかからなかったこと、また、調布ＪＣの予算を活用することで参加者への謝礼金、弁当、茶菓といった税金では負担しづらいサービスを提供できたことや、突発的な支出にも柔軟に対応することができたことが挙げられます。

今後に向けては、市民討議会の特徴である無作為抽出の参加依頼や謝礼金・食事代に係るコストが大きな割合を占めることから、市民討議会の有効性と併せ、適正な開催規模や予算規模を検討していくことが必要と言えます。加えて、適切な予算の負担割合についても継続した検討が必要です。

評価できること	<ul style="list-style-type: none">・官民負担の予算により実施したこと。・郵送料の割引サービス等を利用し経費を抑制したこと。
改善が必要なこと	<ul style="list-style-type: none">・チラシ・ポスターの残余が発生したことなど、さらなる経費の抑制余地があること。・予算額と決算額に開きがあるため、当初想定をより厳密に行うこと。
今後に向けて	<ul style="list-style-type: none">・市民討議会の有効性や適正な開催規模など、費用対効果を検証する。・予算の適切な負担割合を検討する。



参加依頼書封入作業の様子

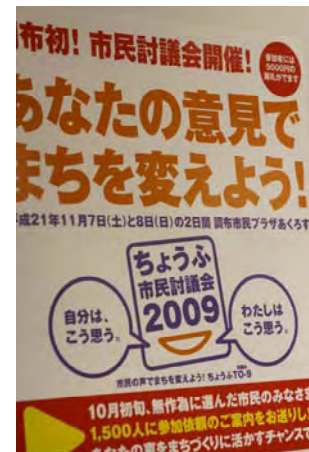
(10) 事前PRについて

今回の市民討議会は、調布市において初めての開催であることから、広く市民に知られているとは言えず、無作為抽出された市民に参加依頼書を送付する前に、少しでも認知度を高める必要があり、事前PRに力を注ぎました。

一つは市報などによる周知で、調布JCと調布市の実施に関する協定締結、公募市民委員の募集、実行委員会の傍聴案内、市民討議会開催など、その都度、市報ちようふ及び専用ホームページに掲載しました。

次に、実行委員会総出により、参加依頼書を発送する直前に、ポスターやチラシを、市役所をはじめとする公共施設や協力をいただいた学校、京王線市内9駅に掲示並びに配布しました。

広報についての事前アンケートでは、約4割の方が「市報」と回答しているのに対し、ホームページと回答した方が0人だったことや、「目にしたことがない」と回答した方も複数人いたことから、市民討議会の認知度を高め、参加率の向上を図るために、効果的なPR方法について検討していくことが必要です。



市内各所に掲示したポスター

評価できること	・事前PRを協定締結直後から行ったことで、ある程度、市民討議会に対する市民の認知度を高められた。
改善が必要なこと	・市報、ホームページ、ポスター、チラシによる広報活動ではPR効果に限界がある。
今後に向けて	・ケーブルテレビや調布FM等の媒体を活用する。 ・ポスター、チラシの種類を増やすと共に、掲載期間も長くする。

(11) 市民討議会全体の評価

今回の市民討議会を概観すると「地域について討議できる」「市民の声を発する」機会として、その役割は有意義かつ有効な手段でありました。参加者からは、幅広い年齢層が一つのグループとなり、活気ある討議を通して、さまざまな意見やユニークな提案があり、「考える・話し合える場」として高い評価を受けました。アンケートにおいても、「地域や行政への関心」や「市民参加や地域活動への意欲」は全参加者が「高まった」と回答しており、討議前に比べ、参加者の意識は変化しました。

今回の市民討議会は声なき声を行政に届けるとともに、その手法の検証も目的としてスタートしました。

評価できることとして、①無作為抽出により、これまで市民参加の経験がない方の参加が多数あり参加者の掘り起こしができたこと、②幅広い年齢層が同じテーブルで議論できたこと、③市民の主体性を引き出したこと、④行政、地域、市民参加への関心を高められ、参加者の意識の変化を促せたことが挙げられます。

一方、課題が残るのは、テーマの設定とプログラムの設計についてです。参加者からは、「十分な提案ができなかった」、「現状に対する理解不足」、「専門知識の不足」、「アイデアが出なかった」などの意見や、「テーマによってはもっと深く話し合えばもっと良い案が出る」との意見もありました。これは、テーマやプログラムをよりよくすることで、さらに踏み込んだ意見や提案が可能と考えます。

市民討議会は、普段、意見を発する機会の少ない市民の意見や提案を届けることにより行政計画策定などの基礎資料として役立つと同時に、地域力と市民意識の向上にもつながることから、有効な手法であると言えます。

今後、市民討議会をさらに広めるためには、市民討議会がもっと認知され、大きな役割を担うことができるよう、繰り返し実施し、検証することが必要です。



参加者の皆さん、実行委員の全員で記念撮影

6. おわりに

熱く語った市民討議会

初の試みとして開催した市民討議会は、互いに見知らぬ一般市民が解決策を協働して作り上げる過程が見事でした。

調布に長く住んでいる市民が、地元についての良さを転入者から聞く風景や、幅広い年齢層が一つのグループとなって真剣な討議をする姿が見られました。

調布を暮らしやすく、より良いまちにするために、自分たちのことは自分たちで解決し、自分たちでできないことは地域で、地域で解決できないことは行政で解決していくことの重要性が再確認されたと思います。

「市民討議会」は、地域コミュニティが希薄化した社会の中で「向こう三軒両隣」を蘇らせる力を感じます。

参加者が地域の課題を真剣に話しあう討議会は「公的な場」であり、「市民討議会」に無作為抽出で参加した市民は「公的な人」として考えられます。こうした「公共空間」の形成が「地方自治」の土台です。私たちは、今後も検証を重ね、市民の声を行政に届ける手法を確立していきたいと考えています。

最後に、企画・運営に一昨年前から携わっている(社)調布青年会議所の実行委員・事務局の皆さんが新たなまちづくりのために大変な努力をされたことに対し、公募市民の一人として感謝の気持ちでいっぱいです。



ちょうふ市民討議会 2009

実行委員（公募市民） 島村 誠

(主 催) ちょうふ市民討議会 2009 実行委員会

(共 催) 社団法人調布青年会議所
調布市

実行委員長	小山晃一郎	社団法人調布青年会議所
副実行委員長	荒木優一	調布市
副実行委員長	大前勝巳	社団法人調布青年会議所
副実行委員長	楠葉敏彦	調布市
実行委員	粕谷敦子	調布市
実行委員	川端宏志	社団法人調布青年会議所
実行委員	島村 誠	公募市民
実行委員	花岡 裕	調布市
実行委員	原島秀一	社団法人調布青年会議所
実行委員	広田茂雄	調布市
実行委員	藤淵義信	公募市民
実行委員	山本征博	社団法人調布青年会議所

事務局長	荒井一如	社団法人調布青年会議所
副事務局長	小峯充史	社団法人調布青年会議所
運営幹事	堀 善一	社団法人調布青年会議所
会計幹事	安藤貴弘	社団法人調布青年会議所
広報	菅 寛人	社団法人調布青年会議所
事務局委員	天沼 寛	社団法人調布青年会議所
事務局委員	嵐 祐子	社団法人調布青年会議所
事務局委員	金子 剛	社団法人調布青年会議所
事務局委員	鈴木典子	社団法人調布青年会議所
事務局委員	巴山勝濟	社団法人調布青年会議所

相談役	梶原良介	社団法人調布青年会議所
-----	------	-------------

特別出席者	遠藤弘行	調布市
-------	------	-----



当日運営スタッフ

